

A 会場 (B101) 第一日目 5月27日 (土)

- 9:30-11:55 分科会 A① **ノスタルジアとナショナリズム—東アジアの戦争観光の比較から**
代表者：山口睦
コメンテーター：曾士才
- A1 趣旨説明
- A2 **山口睦**
零戦展示にみる戦争観光の現代的変容
- A3 **藤野陽平**
重層する植民経験からみる戦争観光のノスタルジア—台湾の緑島人権文化園区の事例より
- A4 **金賢貞**
あいまいなダークツーリズム—韓国群山市における「群山時間旅行」を事例に
- A5 **楊小平**
「平和観光」からみる戦争の記憶と越境—広島における原爆遺構の観光化をめぐって
- A6 **田中孝枝**
「震災に抗う」というナショナリズム—紅色旅行基地としての震災遺跡公園を事例として
-
- 13:00-13:20 A7 **中田友子**
開発批判のディスコースと地域住民のエージェンシー—南ラオスのゴム・プランテーション開発の事例から
- 13:25-13:45 A8 **小河久志**
宗教 NGO の支援活動が生み出す新たな関係性—タイ南部インド洋津波被災地の事例から
- 13:50-14:10 A9 **鈴木亜望**
フェアトレードが生み出す非対称的關係—バングラデシュの手工芸品生産に従事する女性をめぐる商取引と支援の事例から
- 14:15-14:35 A10 **箕曲在弘**
フェアトレード農民協同組合からの脱退をめぐる諸要因の考察—共同加工における労働の公平性をめぐって
- 14:40-15:00 A11 **高田明**
ナミビア北中部における景観の変遷—クンとオバンボのコンタクトゾーンにおける地域史再考

-
- 15:20-15:40 A12 **朝水宗彦**
遠隔地における人社系国際イベントの継続性—地方に MICE を定着
させるための実証研究
- 15:45-16:05 A13 **劉冰**
ゲストハウスの舞台表現—伊東市における訪日外国人観光客誘致
- 16:10-16:30 A14 **岩原紘伊**
コミュニティ・ベースド・ツーリズムのローカル化とスピリチュア
リティ—インドネシア・バリ島の事例から
- 16:35-16:55 A15 **村上志保**
中国における外国人プロテスタントの宗教活動の拡大—上海市感恩
堂、鴻恩堂および北京市海淀堂のケースから

B会場 (B102) 第一日目 5月27日 (土)

- 9:30-11:55 分科会 B① **流動化する世界とコミュニケーションの共有性**
代表者：山田孝子
- B1 趣旨説明
 - B2 **山田孝子**
デジタル・メディア活用によるコミュニケーションの共有性—在日チベット
人社会のコミュニティ維持に向けて
 - B3 **煎本孝**
トランス・ヒマラヤ・フェスティバルと共有されるコミュニケーション
 - B4 **王柳蘭**
神戸華人社会におけるキリスト教受容の展開と葛藤
 - B5 **藤本透子**
伝統医療におけるコミュニケーションの共有性—カザフのエムシ（治療者）
の事例から
 - B6 **趙芙蓉**
シャマニズム再活性化におけるコミュニケーションの共有性
-

- 13:00-13:20 B7 **井上大介**
キューバにおけるレグラ・デ・オチャーイファ信仰の権威と正統性
をめぐる動向
- 13:25-13:45 B8 **片岡樹**
神様未満？—東予の牛鬼に関する予備調査報告
- 13:50-14:10 B9 **深田淳太郎**
遺骨と死者のあいだ—遺骨収集活動における骨と死者と生者のつな
がり
- 14:15-14:35 B10 **黄潔**
「鬼がついてること」—西南中国トン族における憑きもの信仰
- 14:40-15:00 B11 **村上忠良**
タイ国北部におけるシャン仏教徒のタンマチャッキヤー朗誦—東南
アジア大陸部上座仏教徒の声と文字の実践研究

-
- 15:20-15:40 B12 **小池誠**
インドネシア・スンバにおける環境保護・宗教復興運動が目指すもの—第5回フェスティバル・ワイ・フンバの報告
- 15:45-16:05 B13 **日丸美彦**
無形文化遺産登録による伝統文化の継承と変容—農耕儀礼としての綱引きブンノックの資源化プロセス
- 16:10-16:30 B14 **川本直美**
「像をあやす」: 神像と信者の世話を介した関係—メキシコ西部村落におけるカトリックの実践を事例に
- 16:35-16:55 B15 **秦兆雄**
儒教復興からみた中国社会

C会場 (B201) 第一日目 5月27日 (土)

- 9:30-11:55 分科会 C① 「人新世 (anthropocene)」を問う—日本の人類学からの応答可能性の探求
代表者：鈴木和歌奈
コメンテーター：田辺明生
- C1 趣旨説明
C2 森田敦郎
「惑星的なもの」の台頭—「環境-科学-開発」連関としての「人新世」とそのインフラストラクチャー
C3 鈴木和歌奈
細胞が作り出す「ニッチ」—再生医療プロジェクトの事例から
C4 モハーチ・ゲルゲイ
廃墟を耕す—生薬栽培における人間と植物の共生をめぐって
C5 大村敬一
多重地球の生態学に向けて—イヌイトの未来からアンソロポシオンを問う
C6 フィッシュ・マイケル
Remediating Ecology in the Age of the Anthropocene
-

- 13:00-13:20 C7 吉田佳世
現代沖縄の祖先祭祀における嫁役割の受容とユタの介在
13:25-13:45 C8 福浦厚子
婚活の当事者—軍隊と軍事文化の人類学
13:50-14:10 C9 梅津綾子
日本人ムスリマによるイスラーム言説の捉え方と実践—東海地方の事例より
14:15-14:35 C10 濱野千尋
異種との性行為はどのように批判されるか?—ドイツにおける動物性愛者たちへの調査事例をもとに
14:40-15:00 C11 熊田陽子
オランダ・アムステルダムで見た prostitute という生き方—飾り窓等で働くインドネシア系移民宅における住み込み調査の成果に基づいて

-
- 15:20-15:40 C12 河野正治
再分配の日常倫理—ミクロネシア・ポーンペイにおける首長制にも
とづく祭宴の事例から
- 15:45-16:05 C13 池田昭光
宗派の外部—レバノンにおける相互行為を事例に
- 16:10-16:30 C14 阿部哲
Compatibility of Islam and Science?: An Anthropological Inquiry into
Environmental Discourses and Practices in Iran
- 16:35-16:55 C15 塩路有子
英国のパブリック・フットパスと地域活性化活動—文化遺産をめぐる
文化・社会的環境の構築

D会場 (B202) 第一日目 5月27日 (土)

- 9:30-11:55 分科会 D① **少数者表象のポリティックス—展示、衣装、観光、芸術の文脈にあらわれる「もの」を中心に**
代表者：窪田幸子
コメンテーター：松井健
- D1 趣旨説明
D2 窪田幸子
少数者を表象から考えるということ
D3 青木恵理子
「炭鉱の記憶と関西 三池炭鉱閉山 20 年展」における表象／再提置
re-presentation
D4 名和克郎
ネパールのランにおける毛織物をめぐる実践と表象の展開—伝統服と絨毯を例として
D5 中村香子
「マサイ」をめぐる表象の重層性—ケニアの牧畜民サンプルの「民族衣装」の新展開
D6 川崎和也
アボリジニの美術工芸品はいかにして「芸術」として売られるのか？—アートアドバイザーの役割に注目して
-

- 13:00-13:20 D7 張金燁子
日本における「鳥」のイメージについて—上山市に奇習・民俗行事「カセ鳥」を主に
13:25-13:45 D8 竹川大介
フィールドと人類学のアンガージュマン—市場と大学のマリアージュはなにを生むのか
13:50-14:10 D9 川瀬由高
村の電気三輪車—中国農村の定住生活における「車」の役割をめぐって
14:15-14:35 D10 渋谷節子
ベトナム・メコンデルタの都市で働く若者と農村の家族
14:40-15:00 D11 吉野晃
〈廟〉における女性シャマンの儀礼と組織の変化—タイ北部、ミエン(ヤオ)社会における新たな宗教現象に関する中間報告

-
- 15:20-15:40 D12 **二文字屋脩**
「非在の経験」からの出発—一定住民的言語を超えた人類学に向けて
- 15:45-16:05 D13 **田川夢乃**
自らを説得し、納得させる—フィリピン、マニラ首都圏におけるコールセンター労働者の事例から
- 16:10-16:30 D14 **吉元菜々子**
暫定的婚姻形態としての妻訪と別居—ネパール、グルン社会の婚姻における構造とあそび
- 16:35-16:55 D15 **平野智佳子**
オーストラリア中央砂漠で酒を狩るアボリジニたち—都市アリススプリングスにおいて飲酒規制をすりぬけるプロセスから

E会場 (F201) 第一日目 5月27日 (土)

- 9:30-11:55 分科会 E① **ケアの実践を通して編成される社会—場所を奪われた人々が生きる場所について**
代表者：森明子
コメンテーター：中川理
- E1 趣旨説明
E2 **森明子**
ネイバーフッドの可能性—ベルリン街区におけるケアの発動について
- E3 **西真如**
昭和ゲイネスを生きた世代のための介護と看護—身体と家族の境界面についての一考察
- E4 **内藤直樹**
「戦争」のなかで生み出される社会—東アフリカ諸国の難民キャンプにおけるケア・ネットワークの諸相
- E5 **岡部真由美**
都市に生きる流民の場所—タイ北部における仏教寺院内スクウォーターから考える社会編成
- E6 **工藤由美**
マプーチェ医療を「信じている (Tengo fé)」ということ—中心から周縁へ移動する人々の語りから
-
- 13:00-13:20 E7 **工藤正子**
越境するムスリムの若者たち—日本人女性とパキスタン人男性の国際結婚の第二世代の事例から
- 13:25-13:45 E8 **辺清音**
人、モノと文化記号の移動から見るチャイナタウン—神戸南京町の管理組織と店舗を事例に
- 13:50-14:10 E9 **永田貴聖**
在日コリアンと在日フィリピン人の関係形成に関する人類学研究
- 14:15-14:35 E10 **宮下良子**
在日コリアン寺院の宗教的実践のダイナミクス—ローカリティ／トランスナショナルリティの視点から
- 14:40-15:00 E11 **徐幼恩**
移民ネットワークの展開における東南アジア人妻の主体性の一考察—台湾・高雄市在住のベトナム人妻とカンボジア人妻を事例として

-
- 15:20-15:40 E12 **土屋敦子**
華人の末裔の家譜について—ホーチミン市の明郷家族の過去と現在
- 15:45-16:05 E13 **松前もゆる**
ブルガリア農村女性の国際労働移動とライフコース—複数の場所を
生きる、“シングル”として生きる
- 16:10-16:30 E14 **山内由理子**
「移民」であり「先住民」であり—オーストラリア北西部の町ブル
ームと日本人移民
- 16:35-16:55 E15 **大坪玲子**
エチオピアにおけるイエメン系移民と嗜好品

F会場 (F202) 第一日目 5月27日 (土)

- 9:30-11:55 分科会 F① 他種と「ともに生きる」ことの民族誌—マルチスピーシーズ人類学の展望と課題
代表者：奥野克巳
コメンテーター：大杉高司
- F1 趣旨説明
F2 大石高典
ニホンミツバチの養蜂におけるマルチスピーシーズな関係—海外事例との比較からみた国内研究の展望
- F3 島田将喜
妖怪キジムナーのモデルを追い！—境界的存在としてのヤンバルクイナと沖縄の妖怪
- F4 奥野克巳
ヤマアラシと人ともものをめぐるコンタクト・ゾーン—サラワクにおける複数種のランドスケープ
- F5 合原織部
猟犬の領域の住還—宮崎県椎葉村の猟師と猟犬のコンタクト・ゾーンに着目して
- F6 近藤祉秋
「残り鳥」と過ごす冬—内陸アラスカにおける鳥と人の刹那的な絡まりあい

-
- 13:00-13:20 F7 金龍哲
食べられた文字と創られた文字—中国貴州省のトン族の事例にみる民族の文字を巡る心性
- 13:25-13:45 F8 齋藤貴之
出稼ぎ移民の「帰還」がもたらす文化的インパクト—歯舞群島の「越中衆」と富山県の昆布文化の関係
- 13:50-15:00 F9 根本雅也、松尾浩一郎
Above the Ground (上映時間：55分)

G会場 (G201) 第一日目 5月27日 (土)

- 9:30-11:55 分科会 G① **インフラを見る、インフラとして見る**
代表者：木村周平
コメンテーター：中空萌
- G1 趣旨説明
 - G2 **難波美芸**
見えるインフラと見えないインフラ—ラオス首都ヴィエンチャン市の河川事業から問うインフラの可視性と不可視性
 - G3 **小西信義**
高齢化する人・街・インフラ—北海道苫前町古丹別地区における流雪溝問題
 - G4 **吉田航太**
インフラストラクチャー／開発における価値の問題—インドネシア東ジャワ州スラバヤにおける廃棄物の堆肥化をめぐる
 - G5 **高橋五月**
福島沖に浮かぶ「未来」とその未来について
 - G6 **古川不可知**
ネパール東部・エベレスト南麓地域における「道」と発展の語り—山岳観光地域の揺動する環境と半透過的なインフラをめぐる

<ポスター発表>

- 13:00-14:35 (質疑応答 13:00-14:35)
- G7 **辻貴志**
狩猟を介した鳥と人の関係性—フィリピン・パラワン島パラワンの事例

<ポスター発表>

- 15:20-16:55 (質疑応答 15:20-16:55)
- G8 **田所聖志**
天然ガス開発地における結婚の変化—パプアニューギニア、ヘラ州における調査から

H会場 (G202) 第一日目 5月27日 (土)

- 9:30-11:55 分科会 H① **グローバル・ジャスティスの形成、規範化とローカリティー—ローカルな現場からの考察**
代表者：細谷広美
コメンテーター：栗本英世
- H1 趣旨説明
- H2 **湖中真哉**
ローカル・インジャスティス—東アフリカ遊牧社会の拷問と平和構築実践
- H3 **石田慎一郎**
オルタナティブ・ジャスティスはリーガルプルーラリズムの応用問題か—NOと答える場合に可能な若干の考察
- H4 **楊海英 (大野旭)**
モンゴル人の中国文化大革命と不名誉な「名誉回復」—ジェノサイド後の真相究明の欠如と和解の困難
- H5 **土佐桂子**
社会的ジャスティスの希求が生み出す排除—ミャンマーにおける民族宗教保護協会をめぐる
- H6 **細谷広美**
移行期正義と先住民—アンデスの先住民からみるデモクラシーの陥穽
-

- 13:00-13:20 H7 **浮ヶ谷幸代**
地域をみつける、地域をつくる—小規模多機能ホームの取り組みから
- 13:25-13:45 H8 **杉本洋**
メンタルヘルス関連当事者活動にみるゆるやかな関係性の実態と特性
- 13:50-14:10 H9 **青木卓也**
生命か人生か—植込み型除細動器 (ICD) 抜去を望んだ一事例から
- 14:15-14:35 H10 **磯部美里**
女はなぜ「伝統医」になれないのか—中国・西双版納タイ族の「タイ医学」を事例として
- 14:40-15:00 H11 **高橋絵里香**
最適化されたケア—北欧型福祉国家と組織・顧客・民営化

-
- 15:20-15:40 H12 **野村亜由美**
津波被災後のスリランカにおける認知症の形態—スリランカではなぜ認知症高齢者が地域で暮ることができるのか？
- 15:45-16:05 H13 **長岡慶**
毒と薬を介した苦悩の物語り化—インド北東部タウンにおける毒盛りの病いをめぐる事例から
- 16:10-16:30 H14 **岡野英之**
シエラレオネ農村部におけるエボラ出血熱対策—首長をはじめとするローカル・エリートはどのような役割を担ったか
- 16:35-16:55 H15 **藤井真一**
ソロモン諸島における真実委員会と在来の紛争処理—和解（frenbaek）をめぐるグローバル／ローカルの緊張関係

A会場 (B101) 第二日目 5月28日 (日)

- 9:00-9:20 A16 **長井優希乃**
インド、デリーに生きる不可触民メヘンディ描き—他者と自分のまなざしを操り、装う
- 9:25-9:45 A17 **井上淳生**
舞踊と音楽の不可分性—日本の社交ダンスにおける「音楽を踊る」試みに注目して
- 9:50-10:10 A18 **諏訪淳一郎**
人格の配分と音楽の extraction—パプアニューギニアの事例から
- 10:15-10:35 A19 **田森雅一**
ダーディー・ミラーズィーの口頭伝承と社会組織—インド北西部ラージャスターンにおけるムスリム音楽カーストの民族誌に向けて
- 10:40-11:00 A20 **古澤拓郎**
インドネシア・スンバ島西部の在来暦法—「苦い月」と「ゴカイ月」をめぐる地域間シグナル伝達の解明から
- 11:05-11:25 A21 **相馬拓也**
ユキヒョウの民俗学—希少動物との共存をめぐる西部モンゴル遊牧民の民間伝承

15:45-17:45 分科会 A② **人類学的映像展示がひらく可能性—身体・再現・含蓄／連累(インプリケーション)**

代表者：丹羽朋子

コメンテーター：川瀬慈

- A22 趣旨説明
- A23 **グリゴレ・イリナ**
「獅子になる」展における実験的展示—フィールドワークにおけるイメージの還元
- A24 **野口靖**
民族誌的映像展示における鑑賞者の想像力喚起—複合メディアによる映像インスタレーション手法の事例から
- A25 **小森真樹**
撮影される「民族誌的現在」、再演される「博物館的現在」—ロバート・フラハティの『極北のナヌーク』とアメリカ文化人類学
- A26 **丹羽朋子**
3.11 以後の映像記録の語りなおし—記録・展示・アーカイブ化の連環の先へ

B会場 (B102) 第二日目 5月28日 (日)

- 9:00-9:20 B16 **池田光穂**
「支配的存在」を名指し、可視化する試みについて—中央アメリカにおける人種=民族構成の近代を再考する
- 9:25-9:45 B17 **竹沢泰子**
もうひとつの人種化のシナリオ—前近代のユダヤ人、「ジプシー」、河原者から考える
- 9:50-10:10 B18 **横田浩一**
台湾南部屏東県における潮州系移民のエスニシティ—陳氏一族の歴史的記憶を事例として
- 10:15-10:35 B19 **大西秀之**
地域共有資源としてのアイヌ文化史跡の可能性—ポー川史跡自然公園を中核とする文化的景観を事例として
- 10:40-11:00 B20 **古賀万由里**
マイノリティの宗教実践—マレーシアのヒンドゥー寺院をめぐって
- 11:05-11:25 B21 **野上恵美**
「難民」から「マイノリティ」へ—在日ベトナム系移住者の労働をめぐる民族誌

15:45-17:45 分科会 B② **多言語状況における実践、制度、そしてコミュニティ成員の社会化**

代表者：**金子亜美**

コメンテーター：**渡邊日日**

- B22 趣旨説明
- B23 **金子亜美**
多言語状況における先住民のキリスト教化—チキトスのイエズス会ミッションにおける言語と音楽の使用をめぐって
- B24 **中野隆基**
「正しいベシロ語」の生成・普及過程をめぐって—ボリビア東部低地チキタニア地方における先住民言語教育政策を事例に
- B25 **チョクシ・ニシャント**
Institution as a zone of transcourse—Santali language socialization and schooling in eastern India
- B26 **山下里香**
「ムハンマド（彼の上に平安あれ）はパキスタンにいらした」—国内モスク教室における多言語性・多声性・社会化

C会場 (B201) 第二日目 5月28日 (日)

- 9:00-9:20 C16 矢島妙子
祝祭参加集団の移動の態様—「よさこい系」祭りにおける学生チーム
- 9:25-9:45 C17 西尾善太
ともに投げ込まれている空間—マニラ首都圏におけるジープニーと自家用車の生み出す交通渋滞の事例から
- 9:50-10:10 C18 貴明玥
都市での生き方—北京における「外地人」についての考察
- 10:15-10:35 C19 古川勇氣
チーズのゆくえ—ペルー北部酪農地域の仲買人の取引を事例に
- 10:40-11:00 C20 浜田明範
仕立屋になること—ガーナ南部における卒業パーティーとポスト多元的な自己の提示について
- 11:05-11:25 C21 宗野ふもと
ウズベキスタンのバザールとはどのような商空間か—地方都市と村落部でのフィールドワークに基づいて

15:45-17:45 分科会 C② オーストリック大言語族の民族移動・言語文化変容の検証
にむけた基盤整備研究—東南アジア諸民族の起源の模索
代表者：奥島美夏
コメンテーター：新江利彦、二文字屋脩

- C22 趣旨説明
- C23 奥島美夏
インドシナ半島-ボルネオ島間の民族移動の軌跡—カヤン系諸族および周辺民にみる言語・社会組織・宗教の比較分析から
- C24 河合文
マレーシア半島部における民族カテゴリーと民族間交流—クランタン州ルビル流域の「マレー」と「バテッ」を事例として
- C25 伊藤雄馬
「黄色い葉の精霊」の「謎」—タイ北部・遊動狩猟採集民ムラブリの「起源」をめぐって
- C26 平田晶子
民族間関係からみるソーの自己観／他者観—ラオスのオーストロアジア語族とタイ・カダイ語族の事例から

D会場 (B202) 第二日目 5月28日 (日)

- 9:00-9:20 D16 **中生勝美**
日系人強制収容所の調査と日本研究—アリゾナ州ポストン強制収容所におけるレイトンの社会調査
- 9:25-9:45 D17 **加藤敦典**
ベトナムにおいて人類学とは何か
- 9:50-10:10 D18 **中川敏**
異化と科学革命
- 10:15-10:35 D19 **武田龍樹**
過去を語ることについて—歴史と記憶の人類学的探究
- 10:40-11:00 D20 **小林正史**
ラオス・オイ族の伝統的食文化—食べ方、調理方法、食材の関連
- 11:05-11:25 D21 **藤田周**
事実の生産としての料理—モダンガストロノミーレストランにおける事実の生産と言説

15:45-17:45 分科会 D② **民族社会における文化資源の政治学—東アジア・東南アジアの事例から**
代表者：西本陽一

- D22 趣旨説明
- D23 **西本陽一**
コミュニティ・ミュージアムをめぐる文化資源の政治学—タイのローカル・ミュージアム
- D24 **長谷川清**
村落寺院と文化観光のポリティクス—雲南省シーサンパンナ、タイ族の事例から
- D25 **兼重努**
文化資源と民族統合—中国の少数民族トン族の事例から
- D26 **堀江未央**
迷走するひょうたん—中国雲南省瀾滄ラフ族自治州における「ラフ文化」の政治

E 会場 (F201) 第二日目 5月28日 (日)

- 9:00-9:20 E16 **岸上伸啓**
先住民生存捕鯨と動物福祉の問題
- 9:25-9:45 E17 **金明美**
「東シナ海域」研究に向けての一考察—韓国・済州島でのフィールドワークより
- 9:50-10:10 E18 **渡辺浩平**
「調和」と笑い—アメリカ合衆国ナバホ保留地における社会的不和への対処
- 10:15-10:35 E19 **伊藤泰信**
人類学者と企業研究所との協働をめぐる(1) —アカデミック人類学徒の視点から
- 10:40-11:00 E20 **大戸朋子**
人類学者と企業研究所との協働をめぐる(2) —企業内エスノグラファーの視点から
- 11:05-11:25 E21 **中村八重**
朝鮮通信使行列再現による地域を越えた集合的記憶の創造—対馬と下関を中心として

15:45-17:45 分科会 E② **Towards Further Discussion on the Work-Life Balance Concept in Anthropology: An Exploratory Review to Lay the Groundwork for Research on Japan**
代表者：ゴロウィナ・クセーニャ
コメンテーター：中谷文美

- E22 趣旨説明
- E23 **土井清美**
「中断すること」に着目したワーク・ライフ・バランス
- E24 **ゴロウィナ・クセーニャ**
Representations of Work-Life Balance in Online Media in Japan: A Critical Investigation into Contemporary Discourse
- E25 **森口岳**
「自分だけの部屋」、もしくは Anthropology of Room への序説—(半) 主夫的人類学者の Auto-ethnography の試みとして
- E26 **桑島薫**
日本の「ワーク・ライフ・バランス」をめぐる政策と取り組みの問題点—文献レビューをもとに

F会場 (F202) 第二日目 5月28日 (日)

- 9:00-9:20 F10 **山越英嗣**
モノの移動と社会的想像力—「神話化」されるオアハカのストリートアート
- 9:25-9:45 F11 **角南聡一郎**
坪井正五郎の物質文化研究—総合人類学的アプローチの検討
- 9:50-10:10 F12 **風戸真理**
工業製品と手作業製品の相補性と価値づけ—モンゴル国における住居フェルト生産の百年史より
- 10:15-10:35 F13 **岩谷洋史**
主体化と客体化の「はざま」で働く—清酒製造現場でのフィールドワークから
- 10:40-11:00 F14 **永吉守**
「ユネスコ世界遺産」をめぐる政治化される「文化」—「明治日本の産業革命遺産」登録過程の経験より
- 11:05-11:25 F15 **土谷輪**
新たなる魔除けの局面—京都における「瓦鍾馗」と「ちまき」の人類学的研究

15:45-17:45 分科会 F② **スペイン／カタルーニャの民族誌試論—ネオリベラリズムという視点から**

代表者：田沼幸子

コメンテーター：中川理

- F16 趣旨説明
- F17 **深澤晴奈**
移民政策のパッチワークモデル—移民受け入れ国となったスペインにおける政策決定軸
- F18 **池田朋洋**
住宅ローン債務者たちの生と協働—経済危機後のスペインにおける社会運動の現場から
- F19 **岩瀬裕子**
「コモン」をめぐる試論—スペイン・カタルーニャ州における人間の塔を事例として
- F20 **田沼幸子**
スペイン／カタルーニャの民族誌試論—ネオリベラリズムという視点から

G会場 (G201) 第二日目 5月28日 (日)

- 9:00-9:20 G9 馬場淳
グローバル・クライシスと伝統—パプアニューギニア・マヌス州におけるパリアウ運動後継者の思索
- 9:25-9:45 G10 ガ・ザン
国家的社会変化における青海チベットの生誕儀式的動態—中国青海省貴徳県S村の事例から
- 9:50-10:10 G11 大場千景
歴史の生成過程に関する一考察—エチオピアで起きたある出来事に対する当事者たちの解釈を事例として
- 10:15-10:35 G12 松岡陽子
揺れる記憶と語り
- 10:40-11:00 G13 川田順造
異文化への関与のあり方を問う
- 11:05-11:25 G14 片雪蘭
北インド・チベット難民社会における民主主義とダライラマ—2015-6年度チベット亡命政府総選挙を事例に

15:45-17:45 分科会 G② **モノと演じる・モノと奏でる—マテリアリティの人類学と芸能研究の交差点**
代表者：吉田ゆか子
コメンテーター：松嶋健

- G15 趣旨説明
- G16 増野亜子
冠が決めるもの—バリの歌舞劇アルジャにおける身体・声・モノ
- G17 吉田ゆか子
楽器からみる芸能の越境—日本のバリ芸能グループを事例に
- G18 辻本香子
中国龍舞における龍・楽器・身体—パフォーマンスを取り巻くモノの相互作用を中心に
- G19 佐本英規
森の中のレコーディング・スタジオ—ソロモン諸島アレアレの竹製パンパイプスをめぐって交差する複数の物質性

H会場 (G202) 第二日目 5月28日(日)

- 9:00-9:20 H16 足立賢二
外交・国際交流分野で活用される現代日本の武道（武術）に関する一考察—「日本固有の身体運動文化」とされる「武道」の自画像
- 9:25-9:45 H17 出田恵史
クラシックバレエにおける身体技法の習得過程実践—タイにおけるプロバレエ団の実践から
- 9:50-10:10 H18 佐藤航也
個人性の顕在化と消失—スウェーデンのプレスクールに通う障害児をめぐる保育実践の検討から
- 10:15-10:35 H19 左地亮子
旅の生活を語るモノと迫害を告発するアーカイヴ—フランスのジプシー社会における「想起」の始まりに関する考察
- 10:40-11:00 H20 宇田川彩
家族の記憶・集団のアーカイブ—ブエノスアイレスのユダヤ人と「ポストメモリー」についての考察

-
- 15:45-17:45 分科会 H② 施設間移行と生存経路多様化の基礎的研究
—児童福祉施設・通所授産施設・（野宿者）自立支援施設の連携研究から見えてきたこと
代表者：飯嶋秀治
コメンテーター：森明子、浮ヶ谷幸代
- H21 趣旨説明
- H22 飯嶋秀治
児童福祉施設における施設間移行と生存経路の多様化—歴史・統計・施設・施設間移行
- H23 間宮郁子
精神障害者通所施設における施設間移行と生存経路の多様化—統計・精神障害者・施設間移行
- H24 北川由紀彦
生活困窮者施設における施設間移行と生存経路の多様化—施設間の移行をもたらす条件に注目して
- H25 増田健太郎
児童福祉施設における施設間移行と心理的ストレス—入所者と大人のストレスの関係性に注目して